



# 室内イニシアティブゲーム

梵珠少年自然の家

## 1 活動のねらい

- ・グループで取り組むことによって仲間意識を高めることができます。
- ・グループ内での意思疎通を図り、協力する態度を養うことができます。
- ・課題を解決することでよろこびや満足感を味わうことができます。

【教科への対応】 小学校：学級活動など 中学校：学級活動など

【組合せ可能な活動プログラム】 野外活動など

## 2 活動の概要

館内に設置した様々な課題を、グループで協力し解決する活動です。それぞれの課題を解決することも大切ですが、仲間同士が効果的に意思疎通を図り、協力して合意形成を図っていく過程が最も重要です。

(1) 人数 160人以内

※一度に実施できるのは80人程度のため、他のプログラムと組み合わせて実施することが望ましい。

(2) 対象 小学校5年生～中学生・高校生

(3) 期間 通年

(4) 時間 1.5時間（説明20分＋活動70分）

(5) 場所 体育館、研修室1・2

(6) 経費 無料

(7) 指導 実施方法等について、自然の家職員が説明（直接または間接指導）を行う。



<新幹線ゲーム>

## 3 準備物

団体	救急薬品
個人	汗ふきタオル、運動しやすい服装
自然の家	鉛筆、ピプス、ふりかえりカード、用具一式

## 4 引率者の役割分担

役割名	内容
代表責任者	1名。責任者として全体の総括、指揮、連絡にあたる。
ポイント担当	4～5名。各ポイントで、課題の出題を行い、計時、安全管理と活動補助をする。



<危険物処理班>



<日本列島>

## 5 活動の流れ

	内 容
説 明 準 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール、安全管理について説明</li> <li>・各グループに活動順番について説明</li> <li>・鉛筆、ビブス、ふりかえりカードの貸出、配付</li> </ul>
活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ポイントから活動順番に従って同時にスタート。</li> <li>・各ポイントで課題解決の方法を見つけ出す。（協力が大切！）</li> </ul> <p>①ラインナップ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>角材の上に一列に並び、指導者は並び替えの順番（誕生日順等）を指示する。指示に従って並び替えをし、角材から落ちるとやり直しになる。</p> </div> <p>②日本列島</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>全員が台の上に協力して乗る。全員が乗ったままの状態、10数えるとクリアになる。</p> </div> <p>③危険物処理班</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>体育館に設置した白いサークルの中に入らないで、ひもだけを使い箱の中の爆弾（ピンポン球）をもう一方の箱（安全装置）に入れ替える。玉をこぼすと爆発と見なし、やり直しになる。</p> </div> <p>④新幹線ゲーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>竹をレールに見立て、ピンポン球やビー玉（新幹線）を駅（バケツ）まで運び、脱線するとやり直しになる。基本的にレール同士はくっつけてはいけない。また、玉をバックさせたり指で止めたりしてはいけない。</p> </div> <p>⑤ナビゲーション</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一人が真ん中に立ち、残りの全員が目隠しをして手をつなぎ、丸く囲む。真ん中の目隠しをしていない人が案内役となって指示を出し、決められた場所まで移動する。</p> </div>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえり</li> <li>・借用物品を返却</li> </ul>

## 6 実施上の留意点

- ・課題の目的やルールについて把握しておく。
- ・グループ内で課題に取り組む過程が重要なので、ポイント担当者は行き過ぎた助言などは、しないようにする。
- ・グループのレベルに合わせた内容の課題で行う。

## 7 安全に実施するためのポイント

- ・ストレッチなど準備運動をしてから行う。
- ・熱中症対策のため、十分な水分補給をさせる。（途中の休憩必須）
- ・「ナビゲーション」では、目隠しをしての活動となる。極度に不安を感じる参加者に対しては無理に実施させない。眼鏡をかけている参加者は、破損を防ぐため必ず外して活動する。